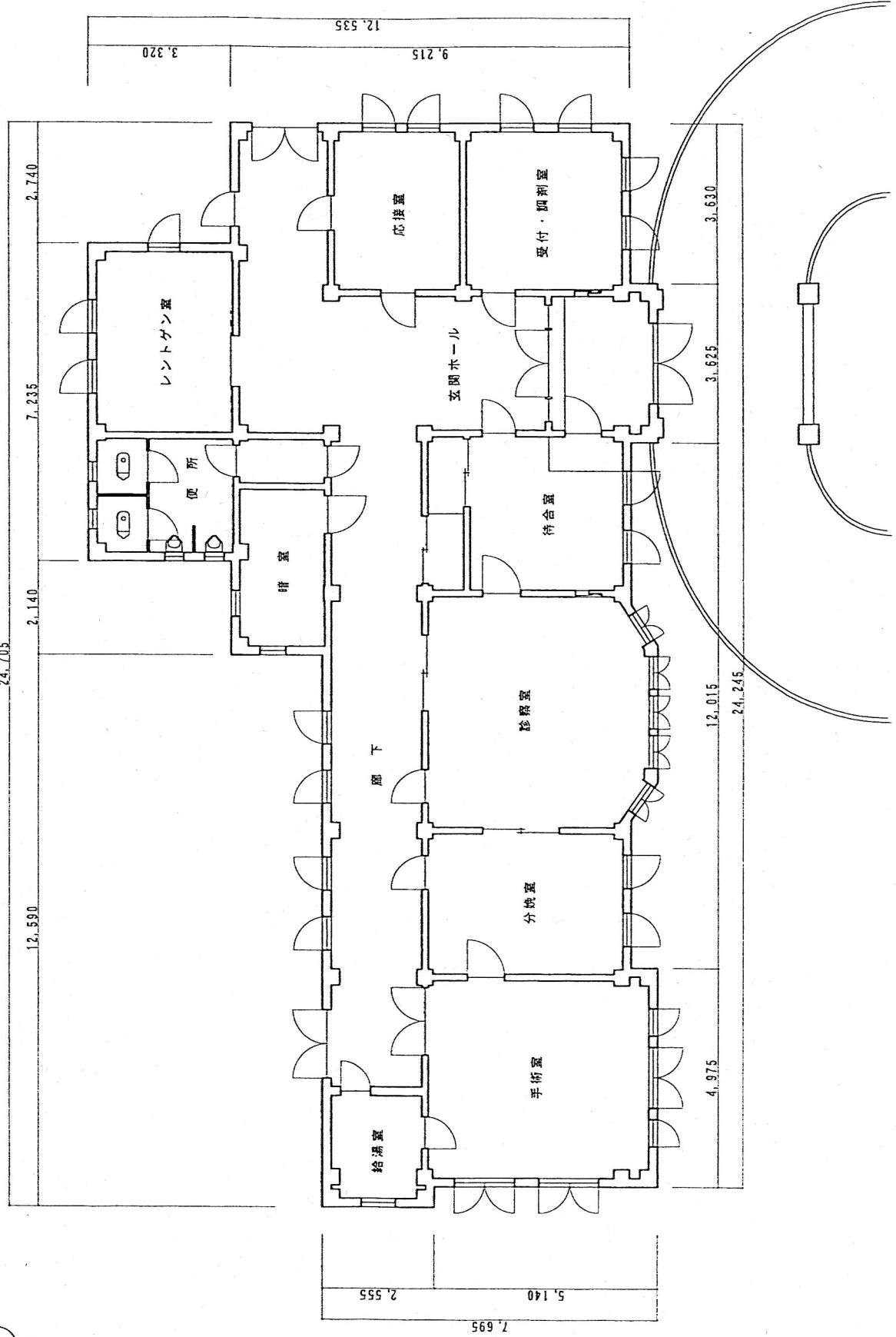
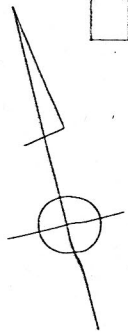


国登録有形文化財「坂田医院旧診療所」

- 概要** 昭和6年に建てられた産科病院。鉄筋コンクリート造、平屋建て、玄関ポーチを付け、正側面をスクラッチタイル貼りとする洋風近代建築である。
- 平面** 玄関ホール、受付・調剤室、待合室、応接室、診察室、分娩室、手術室、給湯室、レントゲン室、暗室、便所の各部屋からなり、主要な部屋を正面側に並べ続き間とし、背面を明かりの差し込む廊下とする機能的な配置である。以前は北側に病棟、西側に主屋、北西に新病院があり、渡廊下で結ばれていた。
- 外観** 外壁は、直線を基調とした菌形の凹凸装飾、玄関ポーチに持ち送りを付けるなど、昭和初期のモダンスタイルの意匠を見せる。
- 内部** 内部は壁、天井ともプラスター仕上げで、蛇腹は各部屋意匠を変える。待合室には、簡素ながら天井飾りも付ける。造作材は、床のフローリング、腰羽目板、建具、桧木いずれも南洋材とみられる木材を用いる。照明器具は、アールデコの影響を感じさせる意匠で、ペンダントやブラケット、乳白色ガラスグローブなど当初のものが残る。いずれも華美なものではないが、当時の流行を取り入れた端正なデザインでまとめられている。
- 評価** 昭和50年代前半まで使用されていた。近年、維持管理のため窓をアルミサッシに取り替え、屋根防水工事も行われたため、保存状況は良好である。基本的に改造が無く、建設当初の状態を残しており、昭和初期の地方近代建築の貴重な遺構である。
- また、タイル貼りの手術室や、特殊な照明装置が残るレントゲン室など、各室の機能的な特徴も見られ、病院建築の遺構としても興味深い。
- 街道に面する敷地正面の引きを広く取り、正面ポーチへのアプローチやスクラッチタイルを用いた瀟洒な外観を見せる洋館は、建設当時、妻沼の家並みにおいて、医業とともに町の近代化のシンボリック存在であったといえよう。



坂田医院旧診療所 平面図